

平成30年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (次期学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
鹿児島大学

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
国立大学法人鹿児島大学	特別支援学校	知的障害	かごしまだいがくきょういくがくぶぞくとくべつしえんがっこう 鹿児島大学 教育学部附属特別支援学校

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
平成 30 年 4 月 ～ 5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 年次に整理した年間指導計画等や単元指導計画の様式及び作成手順に沿った取組 (校内研究会に向けた授業づくりで試行) ・ カリキュラム・マネジメント推進委員会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間指導計画等の様式及び授業づくりまでのプロセス ・ 資質・能力の育成の視点による児童生徒の学びと授業の評価 ・ 実践に基づく年間指導計画の評価
平成 30 年 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研究会 (全 3 回) の実施 ・ 情報収集等 (第 55 回全国特別支援学校長研究大会/東京) 	
平成 30 年 7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研究会のまとめ ・ 年間指導計画等や単元指導計画の様式及び作成手順の修正 ・ 1 学期に実施した単元等の評価作業 ・ カリキュラム・マネジメント推進委員会実施 ・ 情報収集等 (第 63 回九附連特別支援教育部会/長崎) 	
平成 30 年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修正した年間指導計画等や単元指導計画の様式及び作成手順に基づく, 2 学期以降の単元の年間指導計画等と単元指導計画の作成 ・ カリキュラム・マネジメント推進委員会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間指導計画等の様式及び授業づくりまでのプロセスの評価
平成 30 年 9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究発表及び情報収集 (日本特殊教育学会第 56 回大会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラム・マネジメントに係る一連の取組に関する評価
平成 30 年 9 月 平成 31 年～ 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 月に作成した年間指導計画等に基づく各教科等を合わせた指導の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資質・能力の育成の視点による児童生徒の学びと授業の評価

平成 30 年 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研究会（全 3 回）の実施 ・ カリキュラム・マネジメント推進委員会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間指導計画等の様式及び授業づくりまでのプロセスの評価 ・ 資質・能力の育成の視点による児童生徒の学びと授業の評価
平成 30 年 11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研究会のまとめ ・ カリキュラム・マネジメント推進委員会実施 	
平成 30 年 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年次の取組のまとめ（成果と課題の整理） ・ 2 学期に実施した単元等の評価作業 ・ カリキュラム・マネジメント推進委員会実施 ・ 研究紀要執筆 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラム・マネジメントに係る一連の取組に関する評価 ・ 資質・能力の育成の視点による児童生徒の学びと授業の評価 ・ 実践に基づく年間指導計画の評価
平成 31 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間指導計画集の整理 	
平成 31 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開研究会（中間報告会）実施 ・ 公開研究会のまとめ（参加者からの意見集約） ・ カリキュラム・マネジメント推進委員会実施 ・ 情報収集等（東京都立八王子特別支援学校全国公開研究会） ・ 情報収集等（筑波大学附属久里浜特別支援学校視察研修） ・ 情報収集（平成 30 年度新特別支援学校学習指導要領等説明会／東京） ・ 情報収集等（大阪府立東淀川支援学校「次期学習指導要領に向けた実践研究中間報告会」） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラム・マネジメントに係る一連の取組に関する評価 ・ 資質・能力の育成の視点による児童生徒の学びと授業の評価
平成 31 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 学期に実施した単元等の評価作業 ・ カリキュラム・マネジメント推進委員会実施 ・ 次年度の年間指導計画の確認 	

(2) 研究課題

知的障害教育において育成を目指す資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの実現を図る方策及び手続きを明らかにするための研究

(3) 研究の概要

本事業を受託する以前に本校が実践を通して整理した「本校の児童生徒に育てたい資質・能力（以下、本校で育てたい資質・能力）」を育てる授業を実現するために、第1年次の取組を踏まえて次に示す取組を行った。

- 1 第1年次の研究で資質・能力を育む観点から様式や作成の手順を改めた年間指導計画や個別の指導計画、単元指導計画を用いて各教科等を合わせた指導の授業づくりに取り組み、これらの指導計画を用いた授業づくりの有用性を確認するとともに適宜改善を図った。
- 2 第1年次の研究で、単元で扱う教科の内容や授業時数、配列について検討した各教科等を合わせた指導について授業実践を行い、児童生徒の学びの様子や教師の授業づくりの取組から、単元で扱う教科の内容の明確化に関する取組の有用性を確認した。
- 3 第1年次の研究で整理した、日々の授業における児童生徒の学びの姿の評価及び分析の仕方に基づいて形成的評価や単元の総括的評価に取り組み、その有用性を確認した。
- 4 第1年次の研究で改善を図った、学期末に実施する教科等反省の取組を継続して行い、単元の総括的評価を年間指導計画の評価につなげる取組の有用性を確認した。
- 5 教育課程の編成や実施、評価・改善に係る取組を組織的かつ継続的に行うために、既存の会議等の機能を見直して実施し、その有用性を確認した。

(4) 研究の成果

前述の「(3) 研究の概要」に挙げた取組を通して、次に示す成果が得られた。以下、項目別に示す。

- 1 各教科等を合わせた指導の各単元で「児童生徒が各教科等の何を学ぶのか。」「どのような姿を目指すことが各教科等の学びにつながるのか。」「目標達成のためにどのような学習活動が考えられるか。」など、単元の設定過程で検討が必要な事項を整理できるように年間指導計画や単元指導計画の様式を整えることが資質・能力を育てる授業づくりに寄与することが示唆された。
- 2 前項1の取組と関連させて授業づくりを行うことで、教師一人一人が単元で扱う教科の内容を踏まえながら単元の立案を行うことができた。
- 3 日々の授業を対象にした授業研究では、児童生徒の学びの姿を①「『本校で育てたい資質・能力』の視点で評価及び分析する。」、②「①の評価及び分析に基づき学習活動や手立ての有効性と改善案を検討する。」という手続きを経ることで、「本校で育てたい資質・能力」を育てることを意とした授業改善が促進されることや、これらの取組を継続して行うことが単元の総括的評価につながる事が明らかになった。
- 4 年間指導計画に示される事項との関連や、資料作成に要する時間を考慮して、単元の総括的評価で使用する資料の項目を精選することが、具体的な実践に基づく年間指導計画の評価の効果的かつ継続的な実施につながる事が示唆された。
- 5 年間指導計画や個別の指導計画の策定に関する事項など、学校における教育実践に必要不可欠な業務を、校務分掌の枠組みを超えて相互に検討する機会を定期的に設けることの有効性が示唆された。

(5) 課題と今後の方策

第2年次の課題と今後の方策を次の3点で整理した。

- 1 指導の形態相互の関連を踏まえるなど、教科横断的な視点に立った実践を十分行うまで至っていないため、教科別の指導と各教科等を合わせた指導の関連の図り方を見つめ直し、各指導の形態相互の

連続性や関連性を踏まえた単元の配列の仕方について検討する必要がある。また、第2年次までの研究やそれ以前に本校が活用してきた授業づくりに関する考え方等を基に、「本校で育てたい資質・能力」を育むための視点を整理して、単元を構想したり、日々の授業実践で活用したりできるようにしたい。

2 年間指導計画と個別の指導計画の連動の在り方については十分に整理されているとは言い難く、継続した検討が必要である。具体的には、第2年次までに改訂した年間指導計画に記述する事項を手掛かりにして、相互の連動を図りやすくする視点から個別の指導計画に記述する事項や作成及び評価に関する具体的な手続きを検討したい。

3 カリキュラムの一連の取組や検討に多くの教師が携わる機会を設けたことで、教師一人一人の教育課程の編成やその評価・改善に関わる意識が高まりつつある。一方で、検討内容によっては当初設定した時間では十分な検討に至らず、時間を延長したり、検討の機会を新たに設定したりした取組があった。今後は、カリキュラムの一連の取組を見渡して、「教師間で取組方が共有されている部分は様式や手続きを簡略化する。」、「全ての教師で検討が必要な事項については、時間や人員を十分掛けて行う。」など、効率化を推進する部分と十分に時間を掛けて検討する部分を見極めて校務等の整理する体制を整えたい。